

Golden Star LAWN MOWER

取扱説明書

ゴールドスター エンジン芝刈機 タートルモアー

RB-4501



— お買い上げありがとうございました。 —

- この取扱説明書は、いつでも使用できる所に大切に保管してください。
- ご使用前に、まずこの取扱説明書をよく読まれ、本機の機能をご理解の上、正しく安全に使用くださるようお願い致します。



敬告

目 次

	項
1. 安全にお使いいただくために	2～3
2. 危険・警告ラベル貼付位置	4
3. 仕様	4
4. 各部の名称	5
5. 組立	5
1) ハンドルの組立	5
2) キャッチャーの脱着	5
6. エンジン始動前の点検	6～8
1) エンジンオイルの点検	6
2) ガソリンの補給	6
3) エアクリーナの点検	7
4) 各部の締め付けの点検	7
5) キャッチャーの点検	8
7. エンジンの始動・停止	8～9
1) 始動	8
2) 停止	9
8. 作業操作方法	9～10
1)刈高さ調節	9
2) 芝刈作業	9～10
9. 点検・整備・調整	10～13
1) エンジンオイルの交換	11
2) エアクリーナの点検・清掃	11
3) ブレードの点検・交換	11～12
4) スロットルケーブルの調整	12
5) 点火プラグの清掃	12～13
10. 長期間保管する場合	13
11. 本機の異常と対策	14

1. 安全にお使いいただくために

この取扱説明書では『危険』『警告』『注意』の警告事項について、次のように定義しています。

 危険	・ 誤った取扱いをした時に、 <u>重傷または死亡につながる重大事故</u> が発生する可能性があるとき
 警告	・ 誤った取扱いをした時に、 <u>重大な傷害を受ける事故</u> が発生する可能性があるとき
 注意	・ 誤った取扱いをした時に、 <u>軽傷または中程度の傷害をうけ、財物の損壊等につながる事故</u> が発生する可能性があるとき

本機のご使用前に、以下の危険、重要警告及び注意事項をよくお読みいただき、理解し必ず守って下さい。

 危険	人が死亡または重大な傷害を負う場合がありますので、絶対にやめて下さい。
<p>1. エンジン回転中に、<u>フレーム下部には手・足等身体を近づけないでください。</u></p> <ul style="list-style-type: none">・ 回転するブレードで手・足等身体を切断、もしくは巻き込んで重大な人身事故をまねきます。	
<p>2. <u>傾斜地では作業しないで下さい。</u></p> <ul style="list-style-type: none">・ 傾斜地で作業（使用）をされますと、本機がバランスを保つことができず、転倒し事故が発生する恐れがあります。	
<p>3. <u>芝刈作業以外には使用しないで下さい。</u></p> <ul style="list-style-type: none">・ 本機は芝生を刈るために設計・製造されています。	
<p>4. 未成年の方による操作は、<u>保護者の監督下</u>でない限りおやめ下さい。</p>	
<p>5. 本機の<u>操作方法をご存じない方</u>、または<u>理解出来ない方</u>には使用させないで下さい。</p>	
<p>6. 本機の取扱いの指導を受けていない人や扱いに不慣れな人には、本機を<u>貸さないで下さい。</u></p>	

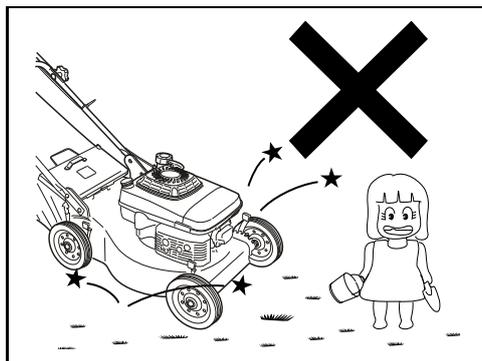


警告

人が重大なケガを負う場合がありますので、必ず守って下さい。
禁止事項は、絶対にやめて下さい。

1. 作業中は、人や動物を近づけないで下さい。

- ・作業中は、作業員以外（人や動物）を作業現場周辺に近づけないで下さい。
飛散物で人身事故の恐れがあります。



2. 作業範囲の石・空き缶・木片などの異物を取り除いて下さい。

3. 次の場合は、エンジン回転を停止させ、点火プラグキャップを点火プラグより外し、刃物が停止してから行って下さい。

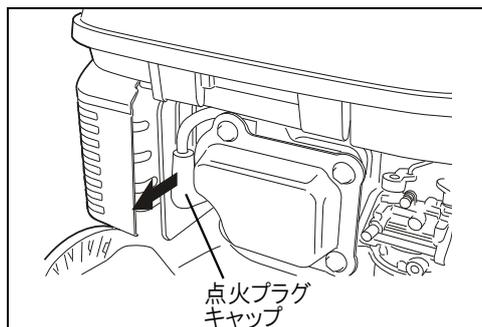
- ・点検、修理及び部品交換時
- ・刃物の周囲や排出通路に詰まった刈草の除去時
- ・刈高さ調節時
- ・ガソリン給油時（エンジンが冷えてから行う）
- ・キャッチャーの脱着



4. 換気の悪い室内ではエンジンを運転しないで下さい。

- ・有害な排気ガスによって中毒の恐れがあります。

5. ヘルメット等、JIS等の規格に合格した保安帽を着用するとともに手袋、防塵メガネ・耳栓をつけ、足下の保護のため安全靴を履いて下さい。



6. 長袖、長ズボンの作業服を着用して下さい。

但し、袖、すそのだぶついたものは着用しないで下さい。

7. 疲れている時、身体の調子の悪い時は使用しないで下さい。

8. 夜間及び天候の悪い時は使用しないで下さい。

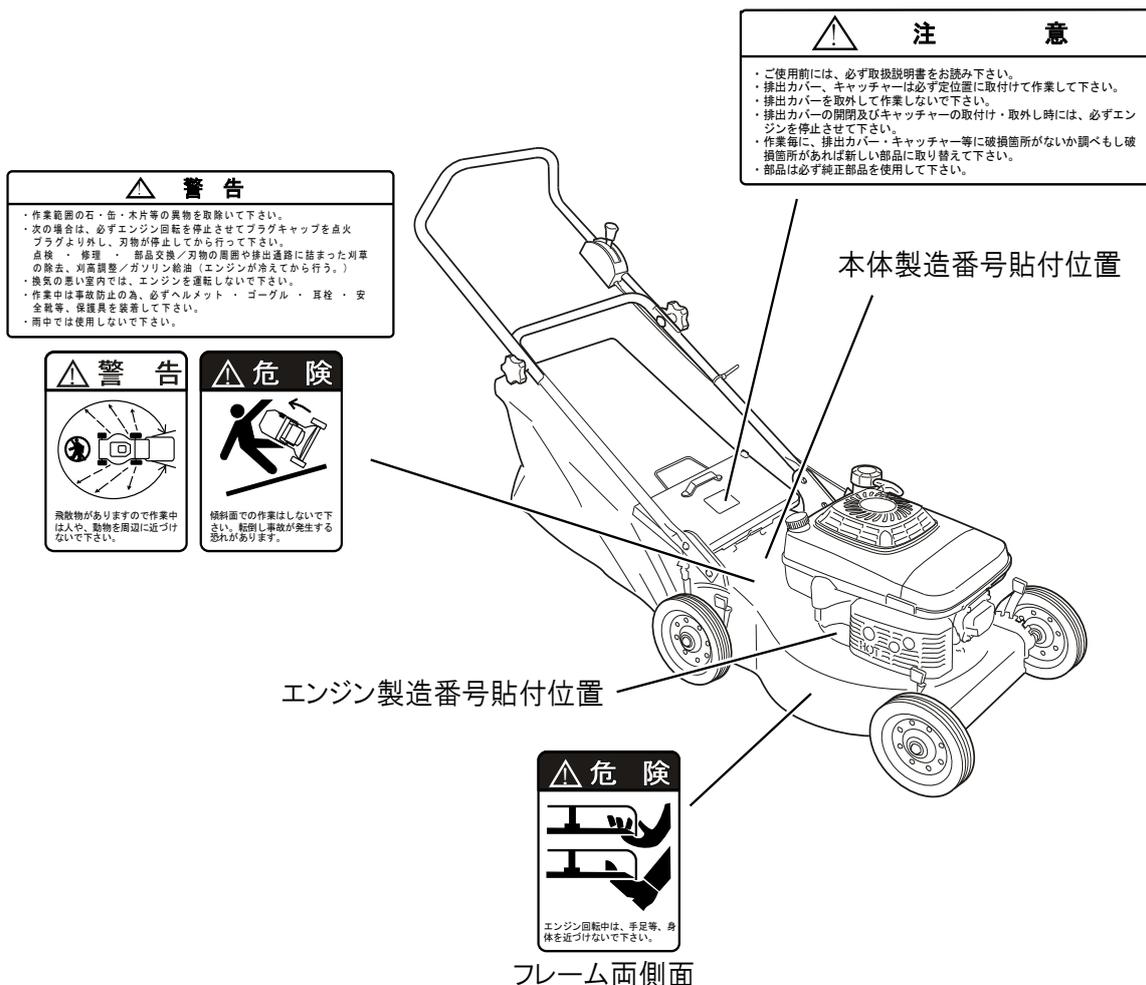
9. 排出カバー、キャッチャーは、必ず定位置に取り付けて作業して下さい。

- ・排出カバーが外されている場合や、キャッチャーが正しく取り付けされていない場合は、エンジンを始動しないで下さい。
- ・身体の一部が巻き込まれ、けがをする恐れがあります。
- ・飛散物で人身事故の恐れがあります。

10. 本機のバランスを保つ事ができない足場の悪い作業現場では、作業しないで下さい。

11. 使用後は、お子様の手の届かない、鍵のかかる所に保管して下さい。

2. 危険・警告ラベル貼付位置



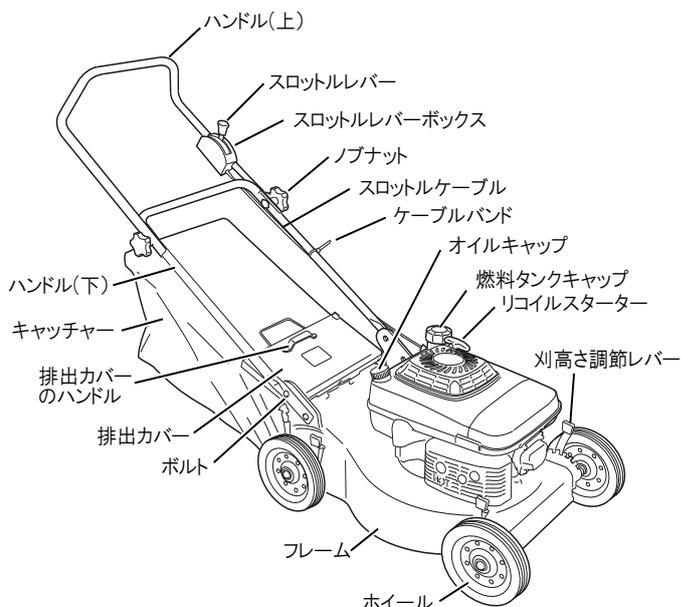
フレーム両側面

3. 仕様

本機型式	RB-4501
エンジン型式	FJ180V
エンジン形式	空冷4サイクルOHV型ガソリンエンジン
総排気量 (cm ³)	179
内径×行程 (mm)	65×54
最大出力 (kW(PS)/rpm)	4.5 (6.0) / 3600
オイル容量 (ℓ)	0.6
燃料タンク容量 (ℓ)	2.0
点火プラグ	NGK BPR5ES
刈幅 (mm)	450
刈高 (mm)	約20~80 (6段階)
刈取能力 (m ² /h)	約790
装備寸法 (L×W×H)	1530×510×1010
乾燥重量 (kg)	約36
キャッチャー容量 (ℓ)	約58
同 梱 品	ドライバー (1)、プラグレンチ (1)、ノブナット (2)、ハンドルボルト (2)、ボルト (4)、ワッシャー (8)、スプリングワッシャー (4)、ナット (4)、ケーブルバンド (1)

※本仕様は改良の為予告なく変更する場合があります。

4. 各部の名称



5. 組立

▲ 注意

・開梱・組立作業は必ず、けが防止の為2人以上で行い、作業者は安全靴・手袋を着用して下さい。

1) ハンドル組立

▲ 危険

・スロットルケーブルを、ハンドルで巻き込んだり、挟み込んだり、折ったりしないで下さい。本機の性能を十分発揮出来ないばかりか緊急時に事故回避操作ができません。

- (1) ハンドル下を左・右2本ずつのボルトで本機を締め付ける。
- (2) ハンドル上のスロットルレバーボックスが上図のようになるようにハンドル上をハンドル下に継ぎ、ノブナットで締め付ける。
- (3) スロットルケーブルにねじれ、曲がり等がないことを確認して下さい。
- (4) ケーブルバンドでスロットルケーブルを下ハンドルに止める。

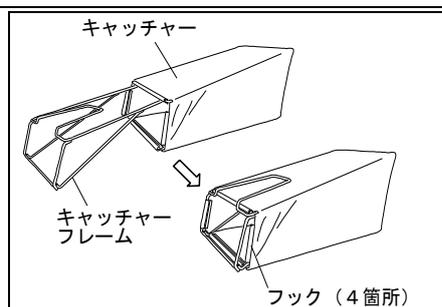
2) キャッチャーの組立と脱着

▲ 警告

・キャッチャーを取り付けないでエンジンを始動しますと、飛散物で人身事故の恐れがあります。

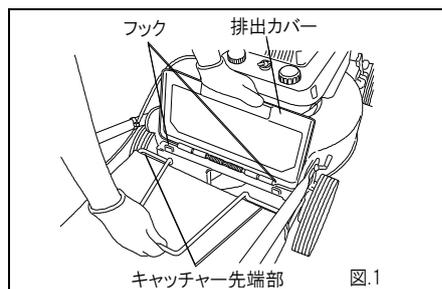
組立

- (1) キャッチャーにキャッチャーフレームを方向に注意して挿入します。
- (2) キャッチャーの先端についているプラスチック製フックをキャッチャーフレームに確実に引っかけます。(4箇所)



脱着

- (1) キャッチャーの取り付けは、排出カバーのハンドルを持ち上げ、キャッチャー先端部をフックに確実に取り付け、排出カバーを下げます。
- (2) キャッチャーの取り外しは、排出カバーのハンドルを持ち上げキャッチャーを握り、少し持ち上げながら後方へ引きます。



6. エンジン始動前の点検

 警告	<ul style="list-style-type: none"> 燃料、エンジンオイルの給油及び、各部の点検は、水平な安定した場所でエンジンを止め、点火プラグキャップを点火プラグより外して、行って下さい。
---	---

1) エンジンオイルの点検：始動前に行う

 注意	<ul style="list-style-type: none"> 工場出荷時にはエンジンオイルを入れていませんので、使用前に必ずエンジンオイルを規定量まで入れて下さい。
---	---

- (1) オイルキャップ（給油プラグ）の周りをきれいに清掃して下さい。
- (2) オイルキャップをゆるめて給油口（B）から取り外しオイルゲージ部分①をきれいな布で拭いて下さい。
- (3) 給油口からエンジンオイルをゆっくり注ぎ込んで下さい。

オイル規定量：0.6ℓ

- (4) オイルキャップを給油口に差し込み、すぐ引抜いてオイルゲージに付着したエンジンオイルをみてエンジンオイル容量を点検します。この時、オイルキャップは締めこまないで下さい。
- (5) オイルの給油容量はオイルゲージ部分にある文字“FULL”と“ADD”の中間位置にオイルが来るようにして下さい。
- (6) もし“ADD”より少なければ補給して、“FULL”より多ければオイルドレンより抜いて下さい。（P11 エンジンオイルの交換参照）
- (7) オイルキャップを給油口に差し込み、確実に締め付けて下さい。
- (8) エンジンオイルはAPI分類SE級相当のエンジンオイルを使用温度（気温）によって右図のように使い分けて下さい。

※ エンジンオイルは使用毎に点検し、定期的に交換して下さい。

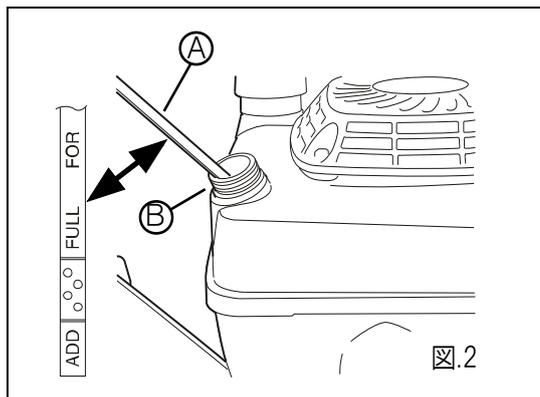


図.2

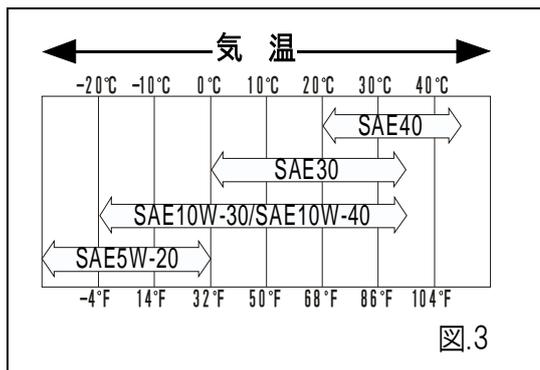


図.3

2) ガソリンの補給

 危険	<ul style="list-style-type: none"> 給油場所周辺は火気厳禁にして下さい。 発火の恐れがあります。必ずエンジンを停止させエンジンが冷えてから行って下さい。 ガソリンをこぼさない事。こぼれた場合は、完全に拭き取って下さい。
---	---

- (1) 燃料は、レギュラーガソリン（無鉛）を使用して下さい。
- (2) 燃料タンクキャップを外し、注入口の口元より少なめに補給します。
- (3) 給油面 ① まで補給後、燃料タンクキャップを確実に締め付けて下さい。

燃料タンクの容量：2.0ℓ

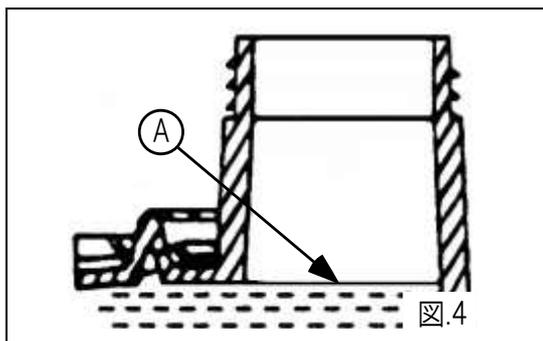
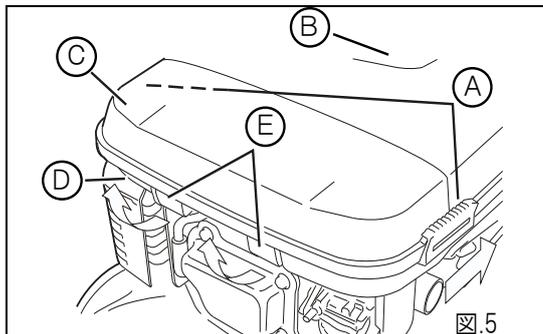


図.4

3) エアクリーナの点検

 注意	<p>・エアクリーナが目詰りをすると、出力不足や燃料消費が多くなるので、定期的に清掃して下さい。</p>
---	--

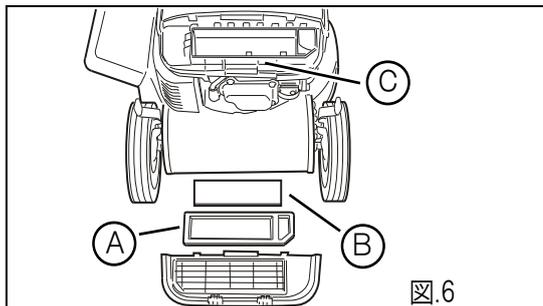
(1) 両側の止め金④をリコイルスターター③の方向に動かしてエアクリーナケース②とエアクリーナボディ①の締め付を弛めます。次に2つの掛金⑤を両手で引きながら天方向へ引き上げてエアクリーナケースをエアクリーナボディから外して下さい。



(2) エアクリーナボディ①から濾紙エレメント④、スポンジエレメント⑤を取り外して下さい。

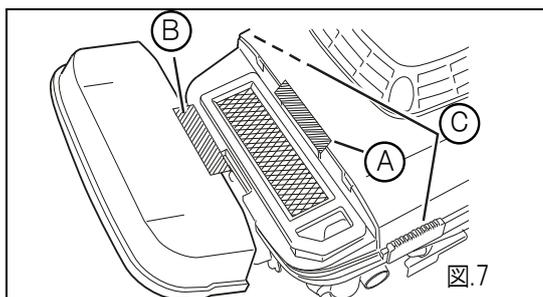
スポンジエレメント：石鹼液で洗浄後、水洗いをし、充分乾燥させて下さい。

濾紙エレメント：軽く叩いて付着しているゴミやほこりを落として下さい。



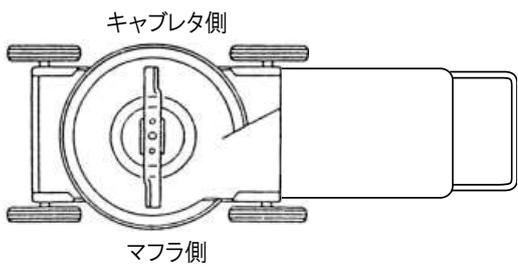
(3) エアクリーナボディへまずスポンジエレメント、次に濾紙エレメントの順に取り付けて下さい。

(4) エアクリーナボディ溝部④にエアクリーナケースの突起部③をはめ込んでエアクリーナケースをエアクリーナボディに取り付けます。最後に両側の止め金をエアクリーナケース方向へ動かしてエアクリーナケースをエアクリーナボディへしっかりと組付けて下さい。



4) 各部の締め付けの点検

 危険	<p>各部のネジ類の脱落やゆるみがないか、確認して下さい。 特にブレードセットボルトを確実に締めて下さい。(P-12参照) ネジ類に緩みがあれば本機に異常振動が発生したり、高速回転のブレードが外れ重大な人身事故をまねきます。</p>
---	--

 注意	<p>本機を傾斜させる必要が生じた場合は、必ず燃料コックレバー（燃料タップレバ）を閉じ、キャブレター側を上、マフラ側を下にして傾斜させて下さい。</p> <div style="text-align: center;">  </div>
---	--

5) キャッチャーの点検

 警告	キャッチャーがすり切れたり、破れたりしていますと、飛散物による重大な人身事故をまねきます。
---	---

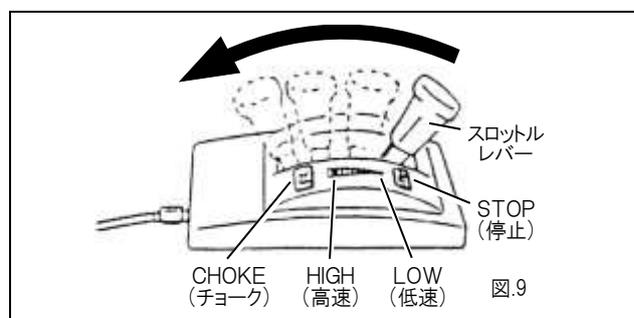
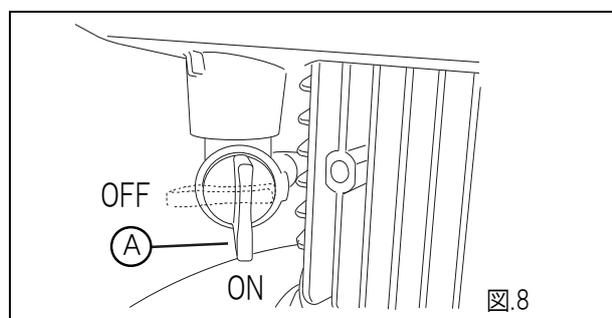
- (1) キャッチャーが破れたり、すり切れたりしている場合は、新品と交換して下さい。
- (2) 目詰まりしている場合は、水洗いをして十分に乾燥させて下さい。

7. エンジンの始動・停止

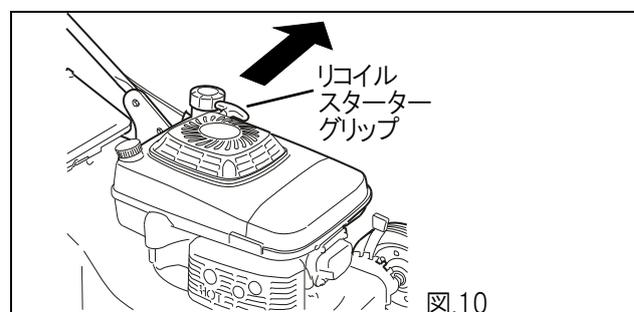
 警告	<ul style="list-style-type: none">・排ガスには、臭いのない、有毒ガスである一酸化炭素が含まれています。換気の悪い場所ではエンジンを運転しないで下さい。・エンジンの排ガスは可燃物に火をつけ、火事の原因となる恐れがあります。・排ガスの出口と周囲物の間は少なくとも1m以上離して置いて下さい。
---	--

1) 始 動

- (1) 燃料タンクの燃料コックレバー④を“ON”（開く）の位置にして下さい。
- (2) スロットルレバーを“CHOKE”（チョーク）の位置に合わせます。エンジンが温まっている時は“LOW”の位置に合わせます。



- (3) 片手で軽くエンジンを支え、もう一方の手でリコイルスターターグリップを重くなる所まで引き、一旦戻してから勢いよく引いて下さい。
注) リコイルスターターグリップはゆっくり戻して下さい。



 注意	<ul style="list-style-type: none">・始動後、リコイルスターターグリップを引っ張った状態で手を離さず、ゆっくりロープをリコイルスターターの中に収納して下さい。・引っ張った状態でグリップを離すとロープやリコイルスターターが損傷する場合があります。
---	---

- (4) 始動後、エンジンの調子を見ながら“LOW”の位置に戻して、約2～3分間の暖機運転を行って下さい。始動直後は、エンジン各部にオイルがゆきわたっていませんので必ず暖機運転を行って下さい。

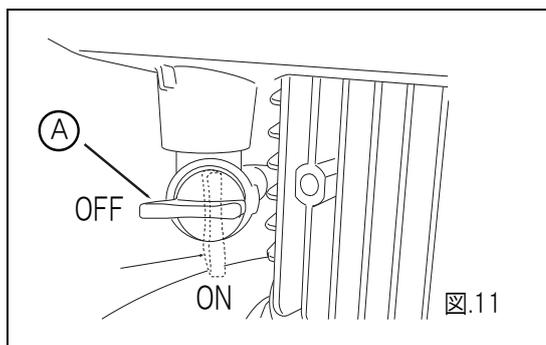
 注意	<ul style="list-style-type: none">・エンジン始動後、負荷をかける前には、必ず暖機運転を行って下さい。暖機運転は、エンジン各摺動部のすき間にオイルを供給して、エンジンを負荷運転に耐えられる状態にします。
---	---

- (5) 芝刈作業の場合は、スロットルレバーを“HIGH”の位置に合わせて下さい。

2) 停 止

通常停止

- (1) エンジンの停止は、高速回転をさげ、まず、スロットルレバーを戻し、エンジンをアイドルリング状態で約1分間まわして下さい。
- (2) スロットルレバーを“STOP”の位置にします。
- (3) 燃料コックレバーⒶを“OFF”(閉じる)の位置にして下さい。



緊急停止

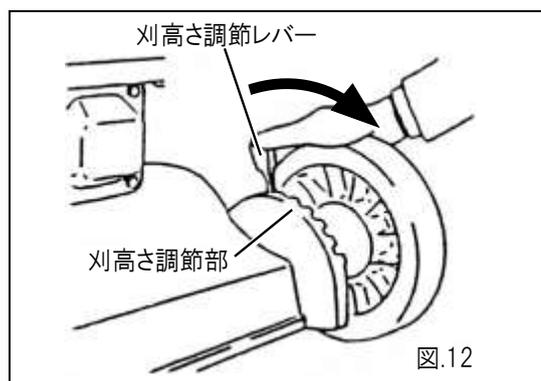
- (1) 緊急事態が発生した時、作業機のスロットルレバーを“STOP”の位置にしてエンジンを停止して下さい。
- (2) エンジンが停止したら、必ず燃料タンクの燃料コックレバーⒶを“OFF”(閉じる)の位置にして下さい。

8. 作業操作方法

1) 刈高さ調節

 警告	刈高さ調節はスロットルレバーを“STOP”の位置にして必ずエンジン回転を止め、点火プラグキャップを点火プラグより外し、刃物の回転が停止してから行って下さい。
---	--

- (1) 刈高さ調節レバーによって約20～80mmまで6段階に刈取り高さが調節できます。刈高さ調節レバーをタイヤ側に引き、移動させて溝に入れて下さい。
 - (2) 刈高さ調節時には必ずエンジンを停止して行って下さい。
 - (3) 全車軸とも同一高さに調節して下さい。
 - (4) 刈高さ調節レバーが確実に溝に入っているか、必ず確認して下さい。
- ※ 芝刈作業現場の条件によって刈高さは多少変化する事が有ります。



 注意	長く伸びた芝生を刈り取る場合は、最初、刈高さを高くし、順次高さを低くして行って下さい。
---	---

2) 芝刈作業

 警告	作業中は事故防止の為、取扱説明書の警告の項、及び本機の警告ラベルの指示に従って下さい。
---	---

- (1) エンジン始動要領に従ってエンジンを始動して下さい。(P-8参照)
- (2) スロットルレバーを“HIGH”の位置にします。

 注意	草刈作業は、ブレード回転が十分に上昇してから行って下さい。
---	-------------------------------

- (3) 芝刈作業時にエンジン（ブレード）回転が下がって作業が出来ない場合があります。この場合は次の方法によって作業を行って下さい。
- ・エンジン（ブレード）回転の回復後、再度作業を行う。
 - ・刈取巾を狭くする。
 - ・刈高さを高刈りに調節する。

 警告	次の作業は必ず、スロットルレバーを“STOP”位置にしてエンジン回転を停止させ、点火プラグキャップを点火プラグより抜いて行って下さい。
---	---

- (1) 刈高さを調節する時。
(2) ブレード付近の巻き付き物（草、布、ビニール、針金等）を取り除く時。

9. 点検・整備・調整

 警告	<ul style="list-style-type: none"> ・各点検・調整は事故防止の為、必ず行って下さい。 ・必ずエンジンを停止させ、点火プラグキャップを点火プラグから抜き、点検・整備・調整を行って下さい。
---	---

点検項目	作業時間	作業毎	25時間	50時間	100時間	300時間
			作業毎	作業毎	作業毎	作業毎
エンジンオイル	点検	○				
	交換			※1 ○		
エアクリーナ	点検	○	スポンジ		濾紙エレメント	
	清掃		※2 ○		※2 ○	
ブレード及びブレードボルト	点検	○				
各部のボルト・ナット	点検	○				
キャッチャー	点検	○				
スロットルケーブル	点検	○				
	調整				※3 ○	
点火プラグ	点検				○	
	清掃					
バルブ隙間	点検				※4 ○	
	清掃					
燃料フィルター 燃料タンク	清掃			○		
燃料ホース	点検			○		
本機・エンジン コントロールパネル	点検	○				
	清掃					

(但し本書に指示がある場合は、エンジンを始動させて、その機能を確認して下さい。)

※1 初回のみエンジン使用5時間後に交換し、その後定期交換して下さい。

※2 特にホコリ多い所での作業のときは、10時間毎に清掃して下さい。

※3 初回のみ使用5時間後位に調整を行い、その後定期的に調整して下さい。

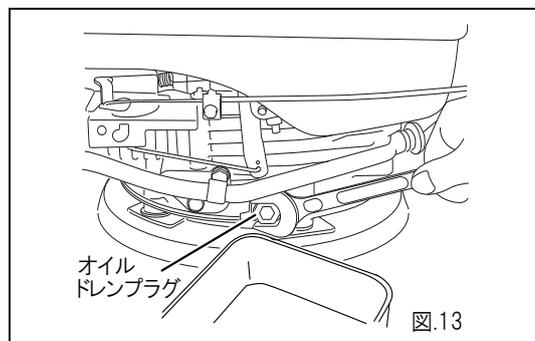
※4 この点検項目は、特殊工具と整備技術を必要としますので、販売店へご依頼下さい。

1) エンジンオイルの交換

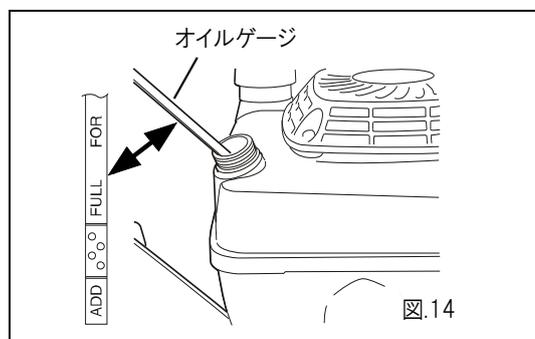
▲ 警告	エンジンオイルの交換は、エンジン・エンジンオイルが冷めてから行って下さい。火傷の恐れがあります。
-------------	--

▲ 注意	ドレンプラグを必要以上に締め付けないで下さい。クランクケースが破損する恐れがあります。
-------------	---

- (1) オイルドレンプラグの下付近に適当な容器を置いて下さい。
- (2) オイルドレンプラグを弛めて取り外しエンジンオイルを容器に抜き取って下さい。
- (3) エンジンオイルの抜き取りが終わったらオイルドレンプラグを元の位置に取り付けて下さい。



- (4) 新しいオイル [API 分類SE 級相当のエンジンオイルを使用温度 (気温) によって使い分けて下さい。P 6 の図 3 を参考にしてください。] を、オイルゲージで確認しながら定量給油して下さい。(オイルゲージは、ねじ込まず差し込んで確認します。)
- (5) 給油後、オイルゲージを確実に緩まないように締め付けます。



2) エアクリーナの点検・清掃

エアクリーナが目詰まりをおこすと、エンジン出力、回転の不足や燃料消費が多くなりますので、定期的に点検・清掃をするようにして下さい。

点検・清掃のやり方は、エンジン始動前の点検項目のエアクリーナの項目を参照して下さい。

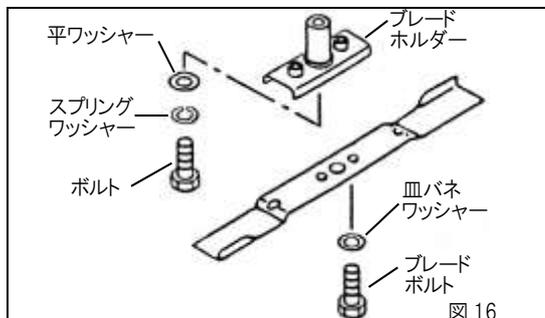
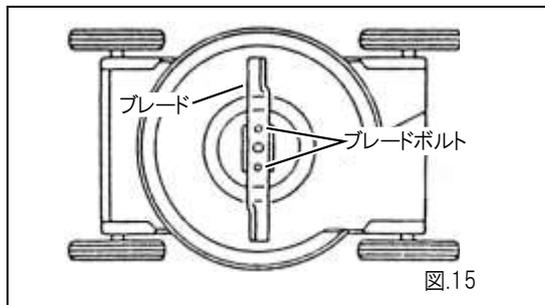
(P-7 参照)

3) ブレードの点検・交換

▲ 危険	<ul style="list-style-type: none"> ・作業前に、必ずブレードを点検し“割れ”“曲がり”“摩耗”等異常があれば、新品と交換して下さい。作業中に、ブレードが石・金属・木片等に当たった場合も同様に点検して下さい。 ・ブレードボルト等も同時に点検し、“摩耗”“破損”があれば新品と交換して下さい。 ・ブレード・ブレードボルト等交換部品は、必ず、ゴールドenster純正部品をご使用下さい。
-------------	--

▲ 警告	<ul style="list-style-type: none"> ・ブレードの点検・交換は、必ずスロットルレバーを“STOP”の位置にして、エンジン回転を止め、点火プラグキャップを点火プラグより外し、ブレードの回転が停止してから行って下さい。
-------------	--

- (1) エンジン回転を停止させ、点火プラグキャップを点火プラグより外し、燃料コックレバーを閉じ、けが防止の為、革手袋・安全靴・ヘルメットを着用して下さい。
- (2) 本機を横転させる場合には、キャブレター側を上、マフラ側を下にして傾斜させて下さい。
- (3) ブレードを回らないように固定してブレードボルトを緩め、(ブレードボルトは右ネジですので、左方向に回すと緩みます)ブレードを取り外します。
- (4) ブレードの取り付けの際には、各 부품の組み忘れや、緩みの無いように確実に締め付けて下さい。
- (5) ブレードの取り付け後は、ブレードを手で回してフレームに接触しない事を確かめ、再度ブレードボルトの締め付けを確認して下さい。

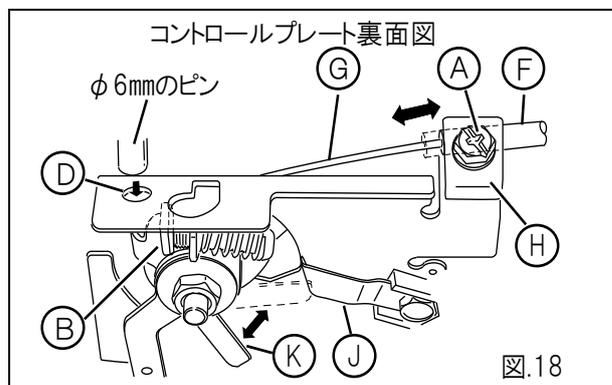
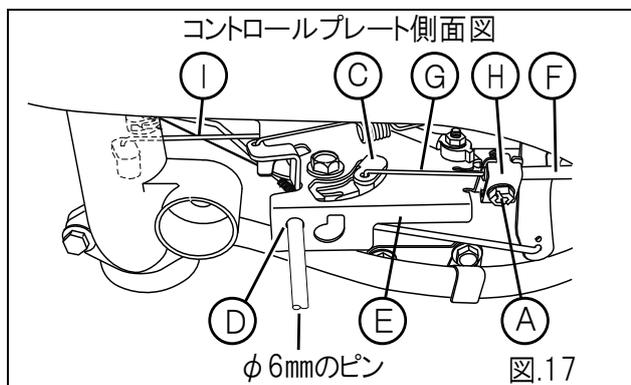


4) スロットルケーブルの調整

▲ 危険

・スロットルケーブルの調整が不十分ですと、緊急時にエンジンの停止が来なくなります。

- (1) スロットルレバーを“STOP”位置に合わせて、スロットルケーブルGをスピードコントロールレバーDに接続します。
- (2) ケーブルアウターEをクランプFに仮止めします。
- (3) スロットルレバーを“HIGH”の位置に合わせスピードコントロールレバーのD部(コントロールプレート裏面図参照)が穴Gより右側にくる位置でケーブルアウターEをクランプFに固定します。
- (4) φ6mmのピン又はボルトを穴Gに差し込みスピードコントロールレバーのD部がピン(ボルト)の右側にあることを確認して下さい。ピン(ボルト)が入らない場合は、ピン(ボルト)を抜き、再度ケーブルアウターEを固定する位置を調整して下さい。
- (5) 穴Gからピン(ボルト)を抜き、下記項目を充たす位置でケーブルアウターEをクランプFに確実に固定して下さい。
 - ・スロットルレバーを“CHOKE”位置にすると同時にチョークロッドIが動く事。
 - ・スロットルレバーを“CHOKE”位置から“HIGH”の位置にすると同時にチョークロッドIが戻る(動く)事。
 - ・スロットルレバーを“STOP”位置にしたときエンジンスイッチの接点DとコントロールレバーEが接している事。
 - ・スロットルレバーを“LOW”の位置にしたときエンジンスイッチの接点DとコントロールレバーEが接していない事。
- (6) 上記項目を充たさない場合は、ケーブルアウターEの固定する位置を変えて上記項目を充たす位置でケーブルアウターEを固定して下さい。
- (7) 調整後はエンジンを始動してスロットルレバーが正常に機能するか確認し、正常に機能しない場合は、再度調整を行って下さい。

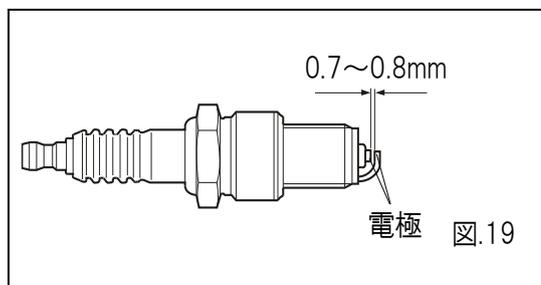


5) 点火プラグの清掃

 警告	<ul style="list-style-type: none"> ・ 運転直後のエンジン部品に触れると火傷の原因となります。点火プラグの清掃・調整はエンジンを停止し、冷えるのを待ってから外して下さい。 ・ 電極の汚れや、電極の隙間が不相当ですと、完全な火花が飛ばなくなり、エンジン回転が不均一になる等、エンジン不調の原因となります。 ・ 点火プラグの取り付けは、ネジ山をつぶす恐れがありますので、はじめは指で軽くねじ込み（5～6山）、次ぎにプラグレンチで確実に締め付けて下さい。
---	--

- (1) プラグキャップを点火プラグより外し、プラグレンチで点火プラグをエンジンより取り外します。
- (2) 電極（B）についている“すす”や“湿り”をワイヤブラシ等で取り除いて下さい。
- (3) 電極の磨耗や点火プラグ各部に破損がないかどうかを点検して、必要に応じて新品の同じ型式の点火プラグと交換して下さい。
- (4) 電極間のすき間の整備値は0.7～0.8mmです。
- (5) 点火プラグを手で仮付けしてから23N・m（2.3kgf・m）のトルクで締め付けて下さい。

推奨点火プラグ：NGK BPR5ES

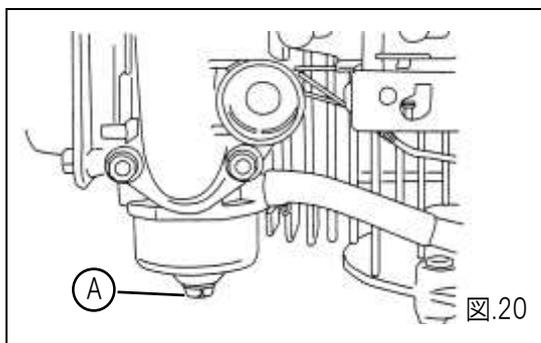


10. 長期間保管する場合

本機を30日以上保管する時には燃料タンク及びキャブレターから燃料を抜き取って、残存燃料の変質による燃料系統部品の劣化を防止して下さい。

 危険	<ul style="list-style-type: none"> ・ 燃料（ガソリン）は非常に引火性が強く火災、爆発の危険性があります。付近に火花や炎がなく十分換気されている事を確認してから燃料を抜き取って下さい。
--	--

- (1) エンジンの外観をきれいに清掃して下さい。
- (2) 燃料コックレバーを“OFF”（閉じる）の位置にし、キャブレターの下付近に適当な容器を置いて下さい。
- (3) キャブレターチャンバボルトⒶを取り外してから燃料コックレバーを“ON”（開く）の位置にして燃料タンク内の燃料を容器へ抜き取って下さい。
- (4) 燃料が抜き終わればキャブレターチャンバボルトⒶはしっかり締め付けて下さい。
- (5) 点火プラグを外し、プラグ穴からエンジンオイルを約1ml程度注油してリコイルスタータグリップを1～2回ゆっくり引いて下さい。
- (6) 点火プラグを組み付けてからリコイルスタータグリップを引いて圧縮を感じる位置で止めて下さい。（これで吸気と排気のパルプが閉じて、エンジン内が外気と遮断された状態となって発錆を防止します。）
- (7) 交換の必要な部品は交換し、各部のボルト・ナットを点検して緩んでいましたら確実に締め付けて下さい。
- (8) エアクリーナを清掃して下さい。
- (9) さびやすい部品にグリスかエンジンオイルを塗布して下さい。
- (10) 本機及びエンジンに付着したゴミ等はきれいに清掃して下さい。
- (11) カバーをかけ、湿気やホコリの少ない風通しの良い場所に保管して下さい。
- (12) 子どもの手がとどかない鍵のかかる場所に保管して下さい。
- (13) 長期保管後、本機を使用する前には新しいエンジンオイルと交換して下さい。



 警告	<ul style="list-style-type: none"> ・ 油脂類の廃液は法令で適切な処理を行うことが義務づけられています。法令に従い適正に処理して下さい。不明な点は、お買い上げになったお店にご相談のうえ処理して下さい。
---	--

1 1. 本機の異常と対策

本機に異常があれば、下表の表より原因を探り適切な対策を施して下さい。

	不調の状況	予想される原因	対 策
エンジンが 始動しない、 または出力 が低い。	圧縮が不十分。	ピストン、シリンダ、ピストンリングの磨耗、ヘッドガスケットの損傷。	販売店にお申し付け下さい。
		バルブの不良。	増締。
		点火プラグのゆるみ。	
		シリンダヘッドボルトのゆるみ。	
	燃焼室に燃料が供給されない。 (点火プラグの電極が乾いている)	燃料タンクが空。	タンクに燃料を補給する。
		燃料コックレバーが“ON”の位置にない。	燃料コックレバーを“ON”(開く)の位置にする。
		燃料フィルターの目詰り。	清掃する。
		タンクキャップの空気抜き穴の目詰り。	清掃する。
		キャブレターの不良。	販売店にお申し付け下さい。
	燃料による点火プラグの汚れ。 (点火プラグの電極が濡れている)	燃料の吸い過ぎ。	点火プラグを清掃する。
		エアクリーナーの目詰り。	清掃する。
		キャブレターの不良。	販売店にお申し付け下さい。
		燃料の種類の間違い。	新しい燃料と交換する。
		燃料に水が混入。	
	点火プラグから火花が出なかったり弱い。	点火プラグの不良。	新しい点火プラグと交換する。
点火コイルの不良。		販売店にお申し付け下さい。	
スロットルレバーが“STOP”の位置になっている。		スロットルレバーを“CHOPKE”の位置にする。	
エンジンの 出力不足及 び回転不安 定。	エンジンのオーバーヒート。	エアクリーナーの目詰り。	清掃する。
		冷却システムの通路がゴミで目詰り。	
		エンジンオイルの不足。	オイルを補給または交換する。
		燃焼室にカーボンの堆積。	販売店にお申し付け下さい。
	エンジン周辺の換気不十分。	エンジンの周囲を点検、清掃する。	
エンジン回転数が上がらない。	ガバナの不良。	販売店にお申し付け下さい。	
エンジンが 停止しない。	スロットルレバーを“STOP”位置にしてもエンジンが停止しない。	スロットルケーブルの調整不良。	スロットルケーブルの調整。
		スイッチ端子の不良・汚れ及びスイッチリード線不良。	調整・清掃及び交換。
本機が異常振動する。		ブレードが破損、もしくは、曲がっている。	交換する。
		ブレードボルトもしくはエンジンを取付けているボルトがゆるんでいる。	ボルトを確実に締付ける。

※ 表は簡単な異常に対する対策しか書いていませんので、わからない点や、複雑な異常はお買い上げいただいた販売店に相談して下さい。



製造番号

部品ご入用、故障の場合、その他取扱い上ご不明な点があった場合には、ご遠慮なくお買い上げの販売店にお問い合わせください。

本機を末長くご愛用いただきますようよろしくお願いいたします。

本 社

兵庫県小野市本町10番地 〒675-1372
TEL (0794) 62-2391代 FAX (0794) 63-5211

東京支店

東京都中央区日本橋小伝馬町8番3号 〒103-0001
TEL (03) 3664-8811代 FAX (03) 3664-8860

九州支店

佐賀県鳥栖市養父町473番地2 〒841-0005
TEL (0942) 85-9277 FAX (0942) 84-2700

新潟・三条出張所

新潟県三条市神明町2番1号 〒955-0063
TEL (0256) 32-9971 FAX (0256) 32-9671

KINBOSHI

Corporation

園芸機器総合メーカー

キンボシ 株式会社

3592-0407Z